

市政記者クラブ 様

令和6年7月11日（木）
健康福祉局健康部感染症対策課
担当：近藤、山口
電話：972-2631

名古屋市感染症発生動向調査（令和6年6月分患者発生状況）について

本市では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、感染症発生動向調査を実施しています。

感染症発生動向調査とは、感染症のまん延防止を図るため、感染症に関する情報の収集、分析及び提供等を行う事業であり、その一環として、毎月、感染症発生件数等について情報提供を行っています。

1 6月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和6年6月	令和5年6月
◆一類感染症 （発生なし）	0 件	0 件
◆二類感染症 ・結核	2 2 件	3 9 件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	2 件	6 件
◆四類感染症 ・レジオネラ症	1 件	6 件
◆五類感染症（全数把握疾病） ・アメーバ赤痢 ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ・急性脳炎※ ・後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む） ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・水痘（入院例に限る） ・梅毒	2 件 1 件 2 件 6 件 7 件 2 件 2 7 件	0 件 3 件 0 件 1 3 件 2 件 0 件 6 2 件
◆五類感染症（定点把握疾病：第23週～第26週（6月3日～6月30日分）） ・報告数の多い疾病は、①手足口病（1,424 件：前月比 3.86 倍）②新型コロナウイルス感染症（1,419 件：前月比 1.44 倍）③A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（655 件：前月比 0.89 倍）		

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

2 トピックス

《腸管出血性大腸菌感染症》

腸管出血性大腸菌感染症は出血を伴う腸炎で、血清型によってO157、O26、O111などに分類されます。感染すると潜伏期間（平均3～5日）を経過した後に、大腸菌が産生するベロ毒素により、主に腹痛、水様性下痢及び血便を引き起こします。また、重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群（HUS）を併発した場合は、死亡する事例も報告されています。

主な感染経路は、菌に汚染された食品等を食べた場合のほか、患者の便や菌の付いたものに触れた後、手洗いを十分に行わなかった場合などに、ヒトからヒトへ感染させることがありますので、次のことに注意してください。

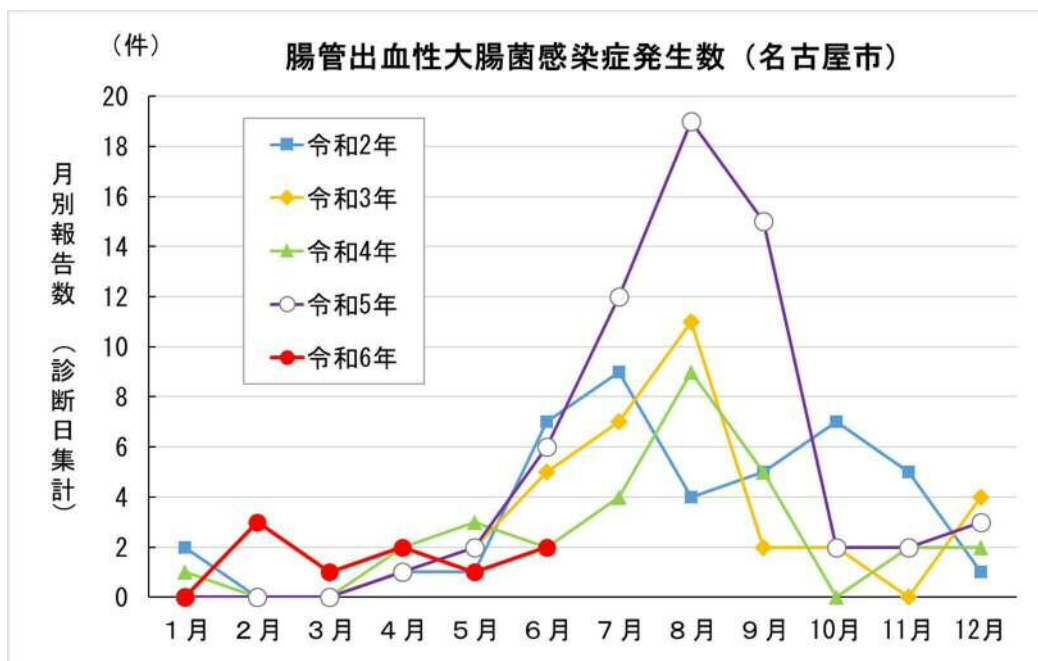
＜予防するには＞

- ・お肉の生食は避け、中心部まで十分に加熱（75℃で1分間以上）して食べてください。
- ・生野菜などはよく洗い、必要に応じて殺菌をしてください。
- ・調理器具は食材ごとに使い分け、よく洗い、熱湯などで消毒してください。
- ・調理前、食事前、トイレ後、おむつ替えの後は、石鹸等で十分に手を洗ってください。
- ・トイレのドアノブなど菌に汚染されやすい場所は、こまめに消毒をしてください。

＜早めの治療を＞

- ・自分の判断で薬を飲んだりせず、すぐに医師の診察を受けてください。
- ・特に子どもや高齢者の健康状態には、日頃から気をつけてください。

例年、夏期に患者の発生数は多くなりますが、季節に関係なく発生するため、年間を通して注意が必要です。



（参考）腸管出血性大腸菌感染症の発生状況

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年※	令和6年※
名古屋市	42	34	30	62	9
全国	3,094	3,243	3,370	3,813	996

※令和5年及び令和6年の患者数は6月30日時点の暫定値

3 病原体分離情報（令和6年6月検査分）

1. 令和6年5月20日発症、令和6年5月22日に市内医療機関を受診し、不明熱（上気道炎疑い）と診断された、瑞穂区在住、0歳1か月、男児の検体（咽頭拭い液）から、かぜ（症候群）を示すことが知られているヒトライノウイルス A 群（HRV-A）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
2. 令和6年5月26日発症、令和6年5月30日に市内医療機関を受診し、RSウイルス感染症と診断された、東区在住、0歳10か月、女児の検体（咽頭拭い液）から、発熱、鼻水など多くはかぜ様症状で軽症ですが、喘鳴を伴った呼吸困難が出るなどし、細気管支炎、肺炎へ重症化することもあるRSウイルス A 型（RSV-A）を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、同一検体から不顕性感染から胃腸炎症状・呼吸器症状などをきたすことが多いですが、まれに新生児・乳児期早期の感染では、ときに髄膜炎・脳炎などの中枢神経感染、敗血症様症状を呈することが知られているヒトパレコウイルス 1 型（HPeV-1）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
3. 令和6年5月26日発症、令和6年5月27日に市内医療機関を受診し、咽頭結膜熱と診断された、天白区在住、2歳、男児の検体（咽頭拭い液）から、発熱、鼻水など多くはかぜ様症状で軽症ですが、喘鳴を伴った呼吸困難が出るなどし、細気管支炎、肺炎へ重症化することもあるRSウイルス A 型（RSV-A）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
4. 令和6年6月7日発症、令和6年6月9日に市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された、守山区在住、24歳、女性の検体（眼拭い液）から、流行性角結膜炎を起こすことが知られているD種のアデノウイルス 37 型（ADV-37）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
5. 発症日未記載、令和6年6月4日に市内医療機関を受診し、診断名未記載、東区在住、13歳、男性の検体（咽頭拭い液）から、多くの人で1歳半までに初感染を生じ突発性発疹の原因として知られているヒトヘルペスウイルス 6B 型（HHV-6B）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
6. 令和6年6月1日発症、令和6年6月4日に市内医療機関を受診し、診断名未記載、瑞穂区在住、49歳、男性の検体（咽頭拭い液）から、主に乳幼児期に感染し突発性発疹等を引き起こすことが知られているヒトヘルペスウイルス 7 型（HHV-7）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
7. 令和6年6月6日発症、令和6年6月10日に市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された、名東区在住、19歳、男性の検体（眼拭い液）から、流行性角結膜炎を起こすことが知られているD種のアデノウイルス 56 型（ADV-56）を遺伝子検査法により検出・同定、細胞培養法により分離・同定しました。

8. 令和6年6月12日発症、令和6年6月14日に市内医療機関を受診し、水痘もしくは手足口病と診断された、中村区在住、0歳3か月、男児の検体（咽頭拭い液）から、かぜ（症候群）、発疹、手足口病を引き起こすことが知られているコクサッキーウイルス A 群 6 型（Cox-A6）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
9. 令和6年6月12日発症、令和6年6月20日に市内医療機関を受診し、RSウイルス感染症疑いと診断された、千種区在住、1歳、男児の検体（咽頭拭い液）から、先天性サイトメガロウイルス感染症、新生児、乳児期感染、健常人における感染、及び移植患者における感染などを起こすことが知られているサイトメガロウイルス（CMV）を、さらにアデノウイルス（AdV 型別不能）を遺伝子検査法により、検出・同定しました。
10. 令和6年6月18日発症、令和6年6月21日に市内医療機関を受診し、急性気管支炎と診断された、千種区在住、5歳、女児の検体（咽頭拭い液）から、主に乳幼児期に感染し突発性発疹等を引き起こすことが知られているヒトヘルペスウイルス 7 型（HHV-7）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
11. 令和6年6月21日発症、令和6年6月22日に市内医療機関を受診し、感染性胃腸炎と診断された、千種区在住、8歳、女児の検体（咽頭拭い液）から、かぜ（症候群）を示すことが知られているヒトライノウイルス A 群（HRV-A）を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、同一検体から主に乳幼児期に感染し突発性発疹等を引き起こすことが知られているヒトヘルペスウイルス 7 型（HHV-7）を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和6年 第23週～第26週（6月3日～6月30日）

	小児科・インフルエンザ/COVID-19定点報告 (70医療機関)												眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)								合 計
	インフルエンザ (ハインフルエンザ及び ンザ等感染症を除く)	新型コロナウイルス 感染症※	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜 炎	流行性角結膜 炎	細菌性髄膜炎 (ハインフルエンザ菌、 髄膜炎菌、肺炎球 菌を原因として同定 された場合を除く)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺 炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイル スであるものに限 る)	インフルエンザによ る入院患者	新型コロナウイル ス感染症※による 入院患者		
千種	6	74	9	10	32	49	6	133	5	6	10	0	0	1								341	
東	2	68	11	1	37	6	5	78	0	1	2	0										211	
北	4	111	20	1	21	35	0	66	1	4	15	0	0	0	0	1	1	0	0	2	11	293	
西	5	58	57	17	104	50	3	382	0	11	137	1	0	0								825	
中村	5	134	23	0	13	40	0	30	0	0	1	0	0	2								248	
中	7	80	12	10	99	22	0	84	0	1	11	3										329	
昭和	2	152	1	0	7	27	0	9	0	0	2	0	0	0	0	2	9	0	0	0	27	238	
瑞穂	3	63	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1								71	
熱田	2	65	1	0	1	0	0	10	0	1	3	0	0	2								85	
中川	2	124	20	9	49	31	2	80	0	7	35	0			3	1	5	0	0	0	14	382	
港	1	93	0	1	12	26	2	14	0	1	1	0										151	
南	1	82	21	14	33	13	3	27	0	1	11	0	0	0								206	
守山	0	76	18	19	59	68	9	179	1	4	3	3										439	
緑	0	135	1	3	39	65	2	49	0	0	7	0	0	3								304	
名東	3	47	23	25	138	38	5	236	0	3	53	2	0	2								575	
天白	1	57	1	1	11	23	1	44	0	0	4	0	0	3								146	
合計	44	1,419	219	111	655	493	38	1,424	7	40	295	9	0	14	3	4	15	0	0	2	52	4,844	
前月	78	985	317	116	736	621	18	369	0	44	55	11	0	12	2	0	16	0	0	0	44	3,424	
前月比	0.56	1.44	0.69	0.96	0.89	0.79	2.11	3.86	-	0.91	5.36	0.82	-	1.17	1.50	-	0.94	-	-	-	1.18	1.41	
昨年同月	320	2,607	818	178	427	1,547	18	74	6	45	1,294	15	0	8	0	1	0	0	0	1	-	7,359	

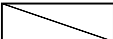
※病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

注1 新型コロナウイルス感染症の基幹定点報告は、令和5年第39週分（令和5年9月25日～）から集計。

注2  は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報） 令和6年 6月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)			合 計
	性感 染器 症ク ラミ ジア	ウ性 イ器 ルヘル ス感 染ス 症	尖圭 コン ジロー マ	淋菌 感 染 症	感黄メ 染色チ 症ブシ ドウ 球耐 菌性	肺炎ペ 球菌ニ 菌感 染リ 症耐 性	緑薬 膿剤 菌耐 感性 感 染 症	
千種	0	0	0	0				0
東								
北	24	11	7	9	3	0	0	54
西	2	2	1	1				6
中村	5	5	2	2				14
中	49	42	27	17				135
昭和	14	5	5	5	8	0	0	37
瑞穂	3	4	0	0				7
熱田								
中川	16	2	6	12	5	0	0	41
港	3	2	0	0				5
南	1	0	0	1				2
守山								
緑	14	0	0	1				15
名東	1	1	0	1				3
天白	0	0	0	1				1
合計	132	74	48	50	16	0	0	320
前月	130	83	54	42	8	1	0	318
前月比	1.02	0.89	0.89	1.19	2.00	0.00	-	1.01
昨年同月	133	44	27	46	0	0	0	250

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

6月分患者報告数	
週報分	4,844
月報分	320
合 計	5,164

令和6年 6 月の一～三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和6年 6 月 患 者 数	令和6年計 患 者 数	令和5年計 患 者 数	令和4年計 患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SA RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属ME RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H5N1)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H7N9)	-	-	-	-
三類感染症	コレラ	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	-	-	-
	腸管出血性大腸菌感染症	2	9 (1)	62 (13)	30 (2)
	腸チフス	-	-	-	-
	パラチフス	-	-	2 (1)	-
	合 計	2 (0)	9 (1)	64 (14)	30 (2)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和6年 6 月 患 者 数	令和6年計 患 者 数	令和5年計 患 者 数	令和4年計 患 者 数
O157	-	4	48 (6)	20 (2)
O26	1	1	4	5
O103	-	1	-	-
O121	-	-	-	4
その他	-	1 (1)	1 (1)	-
型 不 明	1	2	9 (6)	1
合 計	2 (0)	9 (1)	62 (13)	30 (2)

注 過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

結核 新登録患者発生状況（月報）

6月

保健センター名	令和6年6月（※）			令和6年計（※）			令和5年計（※）			令和4年計		
	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	1	0	0	7	1	0	21	10	5	18	3	11
東	1	1	0	5	3	1	4	1	6	13	5	4
北	1	0	0	11	7	2	18	8	14	26	15	5
西	0	0	3	6	1	5	12	5	11	15	6	8
中村	1	0	1	8	1	2	21	4	10	26	13	8
中	0	0	1	7	3	4	21	9	12	9	3	8
昭和	0	0	0	9	4	1	13	2	6	9	2	5
瑞穂	0	0	0	4	0	1	8	2	3	14	7	2
熱田	0	0	0	4	1	2	3	1	4	9	1	5
中川	1	1	0	6	4	6	31	8	20	24	9	12
港	1	0	1	6	1	4	23	5	10	26	5	11
南	4	1	1	11	4	4	18	7	12	24	9	9
守山	3	1	0	14	7	2	21	12	11	18	10	6
緑	0	0	1	10	1	4	19	5	18	21	8	9
名東	0	0	1	5	2	2	10	4	7	16	6	10
天白	0	0	0	4	2	0	19	8	5	15	2	7
全市	13	4	9	117	42	40	262	91	154	283	104	120

※令和5年・令和6年の数値は速報値です。

四類感染症（44疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和6年6月		令和6年計	令和5年計	令和4年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	-		4	5	1
A型肝炎	-		-	1	1
エムボックス	-		-	3	-
重症熱性血小板減少症候群※	-		-	-	1
つつが虫病	-		-	1	3
デング熱	-		2	6	2
日本紅斑熱	-		1	1	-
マラリア	-		-	1	3
類鼻疽	-		-	-	1
レジオネラ症	1		18	32	47
レプトスピラ症	-		-	1	-
合 計	1		25	51	59

※ 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（24疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和6年6月		令和6年計	令和5年計	令和4年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	2		11	13	12
ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	-	- - -	- - その他： 1	B型： 2 - その他： 3	- - -
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1		26	53	62
急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	-		-	-	1
急性脳炎※	2		6	17	3
クロイツフェルト・ヤコブ病	-		-	3	3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-		32	22	28
後天性免疫不全症候群	6	無症候性キャリア： 4 AIDS： 2 -	無症候性キャリア： 15 AIDS： 7 -	無症候性キャリア： 55 AIDS： 20 -	無症候性キャリア： 39 AIDS： 16 その他： 2
ジアルジア症	-		1	-	-
侵襲性インフルエンザ菌感染症	-		6	14	8
侵襲性髄膜炎菌感染症	-		-	1	1
侵襲性肺炎球菌感染症	7		49	54	36
水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	2		7	8	3
梅毒	27	早期顕症梅毒： 19 晩期顕症梅毒： 1 - 無症候梅毒： 7	早期顕症梅毒： 131 晩期顕症梅毒： 5 - 無症候梅毒： 62	早期顕症梅毒： 333 晩期顕症梅毒： 4 先天梅毒： 5 無症候梅毒： 126	早期顕症梅毒： 296 晩期顕症梅毒： 5 - 無症候梅毒： 108
播種性クリプトコックス症	-		1	1	3
破傷風	-		-	1	1
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-		1	-	-
百日咳	-		4	16	2
麻疹	-		2	-	-
合 計	47		367	751	629

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握（侵襲性髄膜炎菌感染症、麻疹及び風しんを除く）を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 24疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 （5 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こし得る感染症
四類感染症 （44 疾病）	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 （全数：24 疾病） （定点：25 疾病）	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 （4 疾病）	【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

（令和 6 年 6 月 30 日時点）